

ガイドボランティア活動記録

(平成15年度)

山本昌生

当園では平成13年3月24日から大温室などの温室植物を中心としたガイドボランティアを導入した。現在3期生まで44名(平成15年12月現在)が活動中である。今回は前号(第24号)に続いて、その後の活動や進展について報告する。

導入の経緯については平成13年度栽培記録(第23号)に記している。平成15年12月現在のガイドボランティアは44名で1期生が27名、2期生10名、3期生7名となっているが、家庭の都合や体調不良などにより活動休止中が若干名いる。

ガイド活動は定期ガイドとしてベゴニア温室、大温室、熱帯スイレン温室、フクシア温室、サボテン温室を毎週土曜日と日曜日に実施しており、今年度は入園者の増加もあることから案内人数は増加するものと思われる(表1)。このほかに不定期ガイドとしてイベント時の案内や学校の自然体験学習や公民館、老人会などからガイドの依頼に対し、対応している。今年度はある程度知られてきたのか、リピーターも増え、増加した(表1)。また、

当園として初めて行った夜の植物を案内する植物ナイトウォッチング(夜間開園)を開催した。サガリバナやオオオニバス、ゲッカビジン、ヤコウボクなどの夜開花(香る)する植物やゴレンシ、アメリカネムなど夜に就眠運動する植物などをガイドし、好評だった。続いて、植物公園植物友の会の会員対象の夜の植物観察会でもガイドを行った。講習会の補助活動では、小学校1~3年生の児童と保護者対象の親子植物体験教室において、こども樹木博士認定試験を実施した。これは、園内の樹木10種をガイドボランティアが特徴や見分け方を案内し、案内後、樹木だけを見て、種類を当てるものである。当てた種数によって級を認定したが、ボランティアの指導により、全種類を当てたこどもが多かった。

今年度から新たに実施した樹木ウォッチングがある。これは温室ガイドを行っていたボランティアの中から、将来屋外の植物ガイドを実施する時のために勉強会を自主的に開き、テキスト作りなどを行ってきたグループが中心となって、開催したものである。平成14年度3月に試験的に実施し、15年度からは毎月第1水曜日にサクラやカエデなど園内の樹木を中心に解説した。昨年までは仲間内での勉強会だったが、今年度から一般にも広報し、参加を呼びかけたところ平日にもかかわらず、多くの参加があった(表2、写真1)。

表1. 定期ガイド・不定期ガイド実績表

月	定期ガイド**						不定期ガイド***		合計
	日数(日)	ベゴニア温室	大温室	フクシア温室	樹木ウォッチング	計	件数	人数	
4~12月の小計*	78	2995	3416	3276		9687	62	1,988	11675
1月	8	240	250	202		692	1	80	772
2月	8	422	398	341		1,161	1	20	1,181
3月	10	501	486	477	53	1,464	3	24	1,488
平成14年度合計	104	4,158	4,550	4,296	53	13,004	67	2,112	15,116
4月	8	466	555	489	30	1,540	5	1052	2,592
5月	9	597	741	657	66	2,061	6	726	2,787
6月	9	518	366	460	59	1,403	1	12	1,415
7月	8	300	330	288	75	993	2	26	1,019
8月	10	323	443	290	66	1,122	2	126	1,248
9月	8	348	387	278	67	1,080	3	532	1,612
10月	8	343	501	381	69	1,294	6	213	1,507
11月	10	456	776	447	62	1,741	10	829	2,570
12月	6	136	166	137	65	504	2	40	544
平成15年度小計	76	3,487	4,265	3,427	559	11,738	37	3,556	15,294

* 平成14年度の4~12月は前号(栽培記録第24号)に記したので省略した。

** 定期ガイドは土・日の昼間に実施したものとした。

*** 不定期ガイドは春まつりと秋まつりの土日以外と団体からの予約分とし、15年度9月実施の夜間開園時の案内人数は人数が多すぎてカウントできなかったため、概算の500人とした。

大温室は熱帯スイレン温室を、フクシア温室はサボテン温室を含む。

樹木ウォッチングには園外実施分も含めた(表2参照)。

表2. 樹木ウォッチング実績 (平成15年)

年度	月 日	タイトル (内容)	参加人数
14	3月5日	ため池湖畔及びツバキ	26
	3月19日	マンサク (早春の花木)	27
15	4月2日	サクラの観賞会 (ソメイヨシノ)	30
	5月7日	香りの散歩道 (ライラック、オガタマなど)	37
	5月21日	宮島の包が浦の樹木観察 (園外)	29
	6月4日	日本庭園とハナショウブ	27
	6月18日	植物園内に生えている野草たち	32
	7月2日	ヤマザクラコース	41
	7月16日	広島城周辺の樹木観察 (園外)	34
	8月6日	芝生広場コース	34
	8月20日	宮島・広島大学理学部附属植物実験所コース (園外)	32
	9月3日	里山コース	36
	9月17日	太田川河畔の植物観察 (園外)	31
	10月1日	展望台コース (チャンチン、モクゲンジ、チシャノキなど)	33
	10月15日	どんぐりを学ぶ (シイ、マテバシイなどの試食)	36
	11月5日	カエデ園コース (ヒトツバカエデ、ミツデカエデなど)	32
	11月19日	カエデを学ぶ (モミジの観賞と見分け方)	30
12月3日	針葉樹園コース (マツやスギの観察)	34	
12月17日	元宇品の自然観察 (照葉広葉樹、ツチトリモチの観察) (園外)	31	

合計 612人 (平成15年3月=53人、平成15年4月~12月=559人)
(園外) は植物公園外で実施した樹木ウォッチング

また、これまで図書室をボランティアルームとして兼用していたが、今年度から図書室近くの倉庫の一部を改造し、専用のボランティアルームとし、エアコン、冷蔵庫、掲示板などを整備した。(写真2、3) ボランティア

ア関係の情報掲示や資料、道具を集中できるようになり、当番日以外にも集まって交流の場となっている。

例会と研修について

前号でも記したように、ガイドボランティアの意欲を維持するためには定期的な研修が必要である。主に2ヶ月に1回の例会時に講堂で行っている。また、ボランティア同士の親睦を兼ねて、野外での宮島の植物観察と山口県の岩国城山の植物観察を行った(表3)。また、情報提供として例会ごとに主にリーダーズ(1年の任期で、事務局と共にボランティア活動の企画・運営などを行う役員)の執筆によるガイドボランティア通信を発行した(表4)。

自主活動について

春の植物公園まつりと秋の植物公園まつりにガイドボランティアコーナーを作り、入園者に活動をアピールした。また期間中は毎日温室のガイドを行うと共に、屋外の樹木ウォッチングを行った。テントでは、竹馬体験、どんぐりの試食、どんぐりクラフト作り、手作り苔玉販売などを行い好評だった。

昨年からは開始したサギソウの無菌播種及び苗の育成は、月に2~4回、無菌播種及び継代培養を行った。(写真4) 苗の一部は球根を形成したので、水苔で鉢に植え付けた。培地作りなどの手順をわかりやすくすると共に確実にするため、ボランティアによりバイテクマニュアルを作成した。またバイテク作業ノートにより、毎回行った作業を記録し、ほかの人への引き継ぎが行えるようにした。

以前行った自主学習のアンケートで温室植物の開花調査の要望が高かったことから、自主学習の一環として、毎週土曜日に大温室の開花調査を行うこととした。当初

表3. ガイドボランティア研修一覧表

開催日	場 所	研 修 内 容	参加者数
15. 2. 1	大温室	春をよぶランらんまつりの展示と出品されたランの解説	15
15. 2. 22	植物公園講堂	ベゴニア新品種のその後	35
〃	芝生広場	ウメ園、マンサクの仲間など早春の花木案内	15
15. 4. 26	植物公園講堂	富山県中央植物園視察報告	30
15. 5. 9	宮島	広島大学理学部附属宮島植物実験所探訪会	23
15. 5. 26	ロックガーデン	ロックガーデンの散策と解説	5
15. 6. 22	植物公園講堂	NHK趣味の園芸あれこれ	27
15. 8. 30	植物公園講堂	染色体と外部形態からみたエビネの分類について	26
〃	大温室ほか	夜の植物観察と、植物ナイトウォッチングガイド研修	15
15. 10. 13	岩国市	山口県の岩国城山の植物観察	18
15. 10. 26	植物公園講堂	どんぐりを使ったクラフトの実習	21
15. 12. 20	植物公園講堂	福岡国際ラン博覧会報告ほか	20
平成15年度4月~12月小計			185

(平成14年度合計は206人)

表4. ガイドボランティア通信タイトル一覧表

号	タイトル	執筆者	発行
9	その後（植物公園樹木めぐり後の胴回り測定結果）	北本照子	H15.4月
10	九重連峰・黒岳登頂記～全山これツクシシヤクナゲ～	村上光春	6月
11	私のボランティア活動	湯出原元	8月
12	福岡市動植物園を訪ねる	荒木大蔵	10月
13	緑・花文化の知識認定試験って... 今年にはラッキーが沢山	舛原和子	12月
	ガイドボランティア園外研修(岩国の城山に参加して)	北本照子	

ガイドの当番が実施していたが、かなりの時間がかかりガイド活動に支障があることから、別に開花調査当番を割り当てて行っている。一つ一つの植物を確認しなければならない大変な作業ではあるが、普段見過ごしているような植物もじっくり見ることができ、ボランティアから勉強になったと聞いている。

また、樹木ウォッチングは園内の植物だけではなく、園外にも勉強会を兼ねた自主活動として実施した。植物公園内では見ることができない植物群落や貴重な植物を観察した（表2）。



写真1. 樹木ウォッチング

屋外ガイドの募集

当園には、温室植物だけではなく、屋外にバラやサクラ、ウメなどの主要花木、落葉樹・常緑樹などを植栽している樹林観察園、植物の進化を学ぶことができる花の進化園、主に高山植物を植栽しているロックガーデンなどがある。以前から職員による観察会や観賞会を行っており、参加者からの人気もあったが、常に行うことは困難であった。そこで入園者からの要望も高かったことから、12月1日から屋外ガイドを募集した。その結果35名の応募があった。平成15年度内に5回の養成講座を開催し、平成16年度から実施に入る予定である。屋外の植物は温室植物と違い、年に1回しか開花しない植物が多く、研修も季節に合わせて随時行う予定である。

今後の計画及び課題

- ・平成16年度から屋外植物のガイドを実施する予定であり、屋外の植物ガイドを充実していく。
- ・ボランティアは4期生の導入により平成16年度から約40名増加する予定であり、合計約75名となる。そのため例会の運営や当番の割り当て、資料の作成などの作業量が増加することが予想される。今後もボランティアと事務局の連携を図り、企画・運営を効率よく行い入園者へのサービスを充実させていく必要がある。



写真3. ボランティアルーム



写真2. ボランティアルーム



写真4. サギソウの培養